

全国の頂点を目指して熱戦を展開!!

全農杯 2024年全日本卓球選手権(ホープス・カブ・バンビの部)
～ 未来の日本卓球界を背負う選手たちが聖地・神戸に集合!～

全日本卓球選手権(ホープス・カブ・バンビの部)は、小学生以下の日本一を決める大会で、歴代日本代表選手もこの大会に出場。まさに世界への登竜門といえる大会です。2013年4月からは、「卓球少年・少女の夢を応援する」という想いから全国農業協同組合連合会(以下、全農)が都道府県予選も含めて特別協賛し、「全農杯」という冠名称がついています。

大会名 全農杯 2024年全日本卓球選手権大会(ホープス・カブ・バンビの部)
 期日 2024年7月26日(金)～28日(日)
 会場 グリーンアリーナ神戸(神戸総合運動公園内体育館)
 主催 公益財団法人日本卓球協会
 主管 兵庫県卓球協会、神戸市卓球協会
 特別協賛 全国農業協同組合連合会
 用具協賛 株式会社 VICTAS(ボール)
 後援 兵庫県、兵庫県教育委員会、(公財)兵庫県スポーツ協会、神戸市、神戸市教育委員会、(公財)神戸市スポーツ協会、(公財)神戸市公園緑化協会、兵庫県生涯スポーツ連合、スポーツニッポン新聞社、報知新聞社



今大会のみどころ

男子

<ホープス男子>

ホープス男子は、前回大会のベスト8であり、2024年東アジアホープス大会日本代表選考会で優勝した岡田蒼空(OKATAKU)と一昨年のカブの部で優勝し、昨年の全日本カデット(13歳以下の部)でベスト8に入った原澤駿太(卓桜会 栃木卓球センター)が優勝候補である。岡田としては、今回の大会で初の全日本タイトルをつかみたいところ。この2名に対抗するのは、2024年東アジアホープス大会日本代表選手である丹波颯音(Dream卓球クラブ)、沢田琉聖(美崎クラブ)、山田創介(グランスター)、石塚大智(羽佳卓球倶楽部)とホープスナショナルチーム(以下HNT)のメンバーたち。その中で、4月に開催されたHNT選考合宿(U-12の部)で優勝した柴田優星(STライトニング)、2023年度パスウェイ中央合宿優勝者の芝原圭吾(crossA-A)、HNT選考合宿(U-12の部)2位でプレーに安定感のある森千暉(水城TTS)らの5年生の活躍が期待される。これらの選手に加えて、前回大会カブの部準優勝の重田柊介(岡谷ジュニア)の活躍にも注目したい。ホープス男子は、岡田、原澤以外の選手については実力が拮抗しており、トーナメントの初戦から熱戦が予想され、どの試合も目が離せない。

<カブ男子>

カブ男子は、前回大会カブの部優勝者である樽井陸(イトウTTC)が一昨年度のバンビから続く3年連続優勝を狙う。樽井と優勝を争うのは、前回大会カブの部でベスト8に進出した川口陽向(YOYO TAKKYU)、HNT選考合宿(U-10の部)で優勝した仲本楓翔(関西卓球アカデミー)、2位の松山佳聖(Y.Y LINK)、前回大会バンビの部優勝者の姚梓聡(姚JTC)と予想される。この選手らに加え、2023年バンビの部準優勝の尾形栄虎(eスマイル)、同3位の徳永汰士(フェニックス卓球クラブ)、左古達也(関西卓球アカデミー)など3年生らが上位進出を目指す。カブ男子は実力が伯仲しているため、混戦を抜け出すのは誰になるのか。

<バンビ男子>

バンビ男子は、前回大会のベスト8で昨年度12月開催のU-7研修合宿で優勝した相原志倫(あいはらスクール)が初優勝を狙う。相原に対し、今年4月開催のHNT選考合宿(U-8の部)で優勝した倉林護(TTS OHANA)、同選考合宿2位の井上奏太(野幌クラブ)、同選考会3位の江崎海(ティーエスクラブ)ら前回大会ベスト16の選手を中心に上位争いが展開される。例年バンビの部においては、ノーシードから上位に進出する選手がおり、新たなスター選手が生まれる可能性も十分ある。



2023年カブ優勝の樽井(右)と昨年バンビ優勝の姚(右)

女子

<ホープス女子>

ホープス女子は、2年生のバンビの部からカブの部と3連覇を果たし、カデット13歳以下女子シングルスでも3位の松島美空(京都ガガライズ)が今回ホープスの部で3階級制覇、4年連続優勝を果たせるか。そこに対抗するのが前回大会ホープスの部ベスト8の稲垣唯唯(田阪卓研)、小西紅偉(Global Athlete)。また、五十畑音吾(卓桜会栃木卓球センター)、姚梓彤(姚JTC)、村松心菜(羽佳卓球倶楽部)、西見香音(ピンポンハウス徳山)をはじめとしたHNTメンバーを中心に初戦から熱い試合が繰り広げられるだろう。ホープス女子は実力者が多数で、誰が勝ち上がるのか初戦から目が離せない。

<カブ女子>

カブ女子は、前回大会カブの部準優勝で、第1シードの鈴木希華(マイダス)が得意な威力のある両ハンド攻撃で初優勝を狙う。前回大会カブの部でベスト8に進出した小松佳祐(Quest新潟クラブ)と木方菜々美(T.T彩たま)らの優勝争いが予想される。更に、HNTメンバーの新井想来(丸子橋卓球スタジオ)、前回大会バンビの部優勝の平鈴莉空(国井興業Kid's)、準優勝の松島愛空(田阪卓研)らの戦いぶりにも注目。

<バンビ女子>

バンビ女子は、前回大会で1年生ながらベスト8に進出した第1シードの西尾友利(森卓球塾)が得意なミスの少ないラリー戦を武器に初優勝を狙う。更に、パスウェイ事業(U-7)で優勝した川口あさひ(偉閣TTL)、HNT選考会で西尾と激戦を繰り広げた黒瀬麻心(細江卓研)、富山詩梨(あいはらスクール)の戦いぶりにも注目が集まる。バンビの部は短期間に急成長する選手が多く、毎年どの選手が勝ち上がるか予想困難である。その中でチャンスを掴み、スターとなる一歩を踏み出すのはどの選手か。全ての選手の活躍と、新たなスターの誕生に期待したい。



2023年カブ優勝の松島(左)と2位の鈴木(右)